



「キリストを信じる者の群れ」

「コリント15:1-11」

牧師 安藤 脩

パウロが最も大切なこととして伝えたものは「キリストが、聖書に書いてあるとおりわたしたちの罪のために死んだこと、葬られたこと、また、聖書に書いてあるとおり三日目に復活したこと」(…3-4)であります。つまり、キリストの十字架の死と復活。これが、福音と呼ばれるものの中心でありますから、聞いただけでなく「受け入れ、生活のよりどころ」(…1)としているのがキリスト者です。これを信じる者の群れが教会であります。たぶん、キリストの死を否定する人はいないでしょう。しかし、キリストの死を、自分の罪の贖いの死と受け止める者の何と少ないことでしょうか。復活に関しては、自分はクリスチャンという人の中にさえ信じていない人がいます。このような人はどこから力を得るのでしようか。自分の力で「いと小さき者と共に」というのであれば、それは信仰ではありません。ヒューマニズム(人道主義)です。

でも復活は、人の頭(経験の積み重ね、常識)ではあり得ない事だから、否定しがちです。初代キリスト教にあっても信じられない人々がいたようです。だからパウロはキリストの復活の確かなことを実際に即して書き示しました。

「ケファに現われ、その後12人に現れたことです。次いで、五百人以上もの兄弟たちに同時に現れました。そのうちの何人かは既に眠りについたにしろ、大部分は今なお生き残っています。」(…5-6)と書いたのは、「復活を嘘だと思おうなら、復活の主イエス・キリストに出会った人々が、未だ生きているのだから聞いてみなさい。」と言いたかったのでしょうか。「そして、わたしにも現れました。」(…8)と、迫害者から伝道者へと変えられた体験を語っています。

復活のキリストが共にいてくださる。これがキリスト者の力の元であると共に、「働いたのは、実はわたしではなく、わたしと共にある神の恵みなのです。」(…10)と言える謙遜の元なのです。このような福音信仰に生きる時、人の隔ては消

2017年秋号

日本キリスト教団
横浜岡村教会

〒235-0021

横浜市磯子区

岡村 4-25-39

TEL.045(751)3917

牧師

安藤 脩

えます。そして、国境、人種を越えて心一つにできるのです。そのような証し人によって横浜岡村教会も立てられました。

それがドイツのリーベンゼラ宣教師の一員であったエルンスト・ラング師です。彼の来日は1928年で、菊名で伝道を初め横浜菊名教会が生まれました。戦時中もドイツに帰ることなく、軽井沢の地で軟禁状態の厳しい時代を経て、倉持芳雄牧師と出会い1946年、横浜福音医療宣教団を設立しました。これが私どもの教会の母教会となった清水ヶ丘教会です。そして、恩師の梅澤幸太郎牧師を、1949年7月、真岡から迎え、8月には横浜福音医療宣教団根岸橋教会が設立されました。梅沢牧師を迎えたときには既に、教会になる準備が整えられていたのです。これは信徒の先立つた働きがあったからです。自分たちの教会が信徒伝道によって設立されたということを心に留めて欲しいと思います。母教会の清水ヶ丘教会と共に日本基督教団に加わり、1955年には岡村の地に会堂を建設し、横浜岡村教会と改名しました。

私たちも、このような聖書の中に記されている、イエス・キリストの十字架の死による贖いの信仰と復活信仰の流れの中にある、キリストを信じる者の群れであることを心に刻み付けておきたい。

証し

み言葉に導かれて

勅使河原 富子

私は1967年7月7

日に横浜で生まれました。

父は左官屋で、仕事は真面目に働いてくれたのです

が、毎日お酒を飲み、母と喧嘩をし、物を投げては壊していました。私は、父が仕事から帰ってくるのが嫌でした。その父も、私が16才の時に脳出血で他界しました。私には2才上の兄がいますが、結婚して福島県に住んでいます。私は不良娘で、中学生の時にタバコを吸い始めたのですが、両親は注意するどころか、「隠れて吸うな」と言ってくれました。その頃から父を見る目が変わり、仲良しになりました。それから31年間、一日20本吸っていたのですが、45才の時に乳癌になり、関原孝子姉に「タバコを吸っていると麻酔が効かなくなるよ」と言われ、止めようという気持ちになり、そして聖書のイザヤ書55章6節の「主を尋ね求めよ、見いだしうるときに。呼び求めよ、近くにいますうちに。神に逆らう者はその道を離れ 悪を行う者はそのたくらみを捨てよ。

主に立ち帰るならば、主は憐れんでくださる。わたしたちの神に立ち帰るならば、豊かに赦してくださいさる。」という聖句を何度も声に出して読み、その助けを頂き、なかなか止められなかったタバコを止められました。母は、私が32才の時にくも膜下出血で他界しました。私は母が大好きで、二人暮らしをしていましたが、突然そのような事が起こり、淋しさと悲しみが胸がいっぱいになりました。その頃に読んでいた本は、聖書を度々引用しているのですが、聖書ってどんな事が書いてあるのだろうと、読んでみたいと思っていました。その頃エホバの証人の方が訪ねてきて、聖書を持っていてという事で、その日から週1回のペースで勉強していました。それを、近所で私が尊敬している方に話しますとその方が心配して、エホバの証人より、間違いのない岡村教会を紹介して下さいました。それが2011年2月10日でした。それから6年以上経って、安藤脩牧師が退任されると聞き、最後になるであろう私が、受洗の喜びを与えて頂こうと思いました。でも正直、聖書を読みますと、サムエル記上のダビデの時代の神の箱を運ぶ時、

牛がよるめいたのでウザが手を伸ばし、箱を抑えたのに対し、主が怒りを発し彼を打たれたと書いてあるので、神様って怖いんだなあと思いました。でも学びの時に、牧師にその事を話したら、それだけ神聖なるお方で、牛に箱を乗せる事から間違っていたんですよと教えられました。そして、神の愛やイエス様が私の救い主として罪を赦して新しい豊かな命に歩ませて下さる事に感謝し、受洗への喜びに至ったのでした。毎日のお祈りの一部が、「テサロニケの信徒への手紙5章16節で「いつも喜んでいなさい」と以下「絶えず祈りなさい。どんなことにも感謝しなさい。これこそ、キリスト・イエスにおいて、神があなたがたに望んでおられることです。霊の火を消してはいけません。すべてを吟味して良いものを大事にしなさい。あらゆる悪いものから遠ざかりなさい」と24節まで、その他、毎日朝、昼、夕方と寝る時にお祈りさせて頂いています。これからも聖書を読んで分らない事は、牧師や先輩姉妹にお伺いしたいと思えます。宜しくお願いいたします。

アーメン



証し

主人との出会いと導き

利川 明子

横浜岡村教会の創立記念日にお招きいただきまして、ありがとうございます。なつかしい岡村教会で、主人のお証しをするのは、主人も天国で大変喜んでいることと思います。主人に代わりまして、御礼申し上げます。

天国に主人が召されてから、来月12日でもう一年になるうとしております。私も82才になりました、もの忘れ等がでてきて、主人の思い出なども、だんだんと忘れがちになり、このように、皆様の前でお証しとは、おそれ多いことでございます。でも神様が、そして天国の主人が、助けて下さることを信じてお証しをさせていただきます。

主人と私の出会いは、私の実家のおとなり、中学の教師をしておりました先生が住んでおりました。その学校で主人も音楽の教師として勤めておりました。そのおとなりの先生とは、気の合った仲間だったそうです。

ある時、その先生が、おとなりに遊びに来ていて、紹介されてお付き合いをは

じめました。その時主人はすでに熱心なクリスチャンで、私はクリスチャンではありませんでした。

ある日、主人は私のすぐ近くでお祈りをしたあと頭をあげて、自分はクリスチャンであり、父母も兄も亡くなり、たった一人で生きてきたことや、自分一人でも、神様を信じてきたのでここまで生きてこられたと話し始めました。そして「人間は偶然にできたと思いますか。」と尋ねたり、「体の全部をみても、つくり主がおられるのです。」と言うのです。私は、始めはなにがなんだか分らず、ただ途方にくれるばかりでしたが、神様のお助けがあったのです。私はだんだんと素直になり、やがて神様を心から信じる事が出来ました。そして洗礼を受けるお許しもいただきました。

その後、岡村教会に移動しまして、大変お世話になりました。

今日はなつかしい皆様ともお逢いすることが出来て大変うれしくて、神様に心より感謝申し上げます。皆様にも心より感謝申し上げます。ありがとうございます。

(ご主人の利川栄宣師は梅澤幸太郎牧師

時代1971年6月から1978年4月まで、横浜岡村教会の副牧師でした。)



教会創立記念に思う

今給黎 美代子

私は、1972年に初めて岡村教会の礼拝に出席しました。当時、副牧師でした利川栄宣先生に、「聖書の御言葉は必ず理解できますよ。1年間礼拝出席を守ってみてください。」と促されました。

私は、徐々に御言葉の真理に導かれ、1年後に罪を悔い改めて、初代の梅沢幸太郎牧師により受洗いたしました。今年、9月13日の教会創立68年記念日には、利川牧師夫人の明子姉妹をお迎えして、感謝の礼拝を捧げました。

「何よりも、まず神の国と神の義を求めなさい、そうすればこれらのものは加えて与えられる。」 (マタイ六:33)

第36回岡村アシユラム報告

教育部担当 坂本 浩

今年の岡村アシユラムは、我が横浜岡村教会にとって特別な集会となった。昨年後半、安藤牧師退任の意向を受け、引継いで下さる牧師の招聘活動を行ってきた。そして、実に不思議な主の導きにより、杉本泉・和生牧師をお招きすることが決まり、今回助言者として和生牧師に来ていただくことが出来た。未だ着任の時は定まっておられないが、着任前に主の家族としての交わりを深められたことは、素晴らしい恵みであった。22日のファミリーアワーにおいて、先ずは和生先生から自己紹介をしていただき、その後、出席した全教会員に自己紹介や自身の思いなどを語ってもらった。以下は、和生先生に予め原稿にしていたものだものに、当日お話された内容を加えたものである。



過去と現在と将来

杉本 和生



私の名の「和生」は、実は父が当時、浮気相手の名から一字を取って、名付けようとして決めていた。そのことに悩んだ母であったが、コリント人への第二の手紙5:19の御言葉が与えられ「神の和解の福音を伝える者になるように」との信仰をその名に込めた。その後、私は両親の別居・離婚を経験し、小学校での壮絶ないじめ、父子家庭内（父が3人の子を引き取る）での被暴力の日々を過ごした。だが、小学4年生のときイエス・キリストによって救われ、加害者や周囲の人々のために祈る者となられ、いじめから解放された。小学5年生の時、本田弘慈先生の導きにより献身を決意。中学1年生で受洗。反抗期は母の徹夜の祈りで変えられ、高校3年生の時、再度、牧師になることを決意。東京聖書学院を経て上野ホーリネス教会の伝道師となる。主任牧師の三男で、同じ夢（多くの養子を引き取る）を持つ神学生の杉本泉と結婚。日本基督教団籍を取得後、補教師試

験を受け、花輪教会で5年間、公園伝道、補習塾、身寄りのない高齢の教会員の介護と終末サポートの活動を行う。その後、宮城野愛泉教会に着任。この頃、里親登録をし、その後次々と子どもを引き取り育てる（里親、特別養子縁組など）。仙台愛泉教会を経て新宿西教会へ。同教会は私の母方の祖父が洗礼を受け、在籍した教会であり、城北アシユラムのグループ教会だった。池の上教会、更生教会、天門教会、横山義孝先生（東京新生教会）、そして教会役員の方々にも、私共と深い絆で結ばれていたことには驚いた。この不思議な導きにより、11年間新宿西教会で過ごさせていただいた。里親の関りから住まいは歌舞伎町ではなく、川口・所沢から教会に通う日々だった。所沢の地元では自治会長も経験し、子ども5人を養育しながら、昨年からは教会ビル主事の仕事もさせていただいた。今春、長期滞在した里子2人が卒業し自立。横浜岡村教会への転任が決まった今、和解の福音を伝える者として、新たな気持ちで再献身し、主イエスにお仕えしたいと思っている。「娘さん2人と共に来ますので、皆さん宜しくとのこと」



私と讃美歌

三宮 陽子

私は中学、高校の時に毎朝礼拝を持ち、歌って来ました。それまでは一度も歌った事はありませんでした。学校で、毎朝歌う讃美歌は新鮮で、詩もメロディーも何て素敵なんだろうと、朝の礼拝が楽しみにになりました。学校でどこかの教会に行くようにと言われ、清水ヶ丘教会に行きました。倉持先生の讃美が素晴らしく、説教を聞くよりも歌声に魅せられてしまい、しばらく通いました。卒業後は教会を離れていましたが、讃美歌は常に口ずさんでいました。40代になってからでしょうか、岡村教会に行きますと、鈴木ふみ代さんが綺麗な声で歌っていました。鈴木さんの家にも訪問し、アップルパイをご馳走になり、讃美歌を沢山歌って来ました。この度、これを書くにあたり、私の好きな讃美歌を二、三選曲しようとして新聖歌をめくっていったら、五二一番の内二九六曲しか知っているのが有りませんでした。結局どの讃美歌も素晴らしく、

選曲出来ませんでした。是非全曲歌ってから、生涯を終わりたいです。

鈴木 恵

讃美歌四六一番「主われを愛す」

子供のころ教会学校で良く歌い、私が記憶する中では、一番最初に覚えた讃美歌ではないかと思えます。

「主われを愛す 主は強ければ
われ弱くとも 恐れはあらず
わが主イエス わが主イエス
わが主イエス われを愛す」

この曲を歌うと教会学校のことを思い出します。主が私達を愛し下さっている。主とともに歩めば恐れはない。子供心にも神様ですごくいいなと思えました。今もこの歌詞のように、何か困難があっても乗り越えることが出来ています。

讃美歌五〇一番「いのちのみとこば」

清水ヶ丘教会にある合唱団に通っていたときに好きだった曲です。

2曲挙げましたが、私にとって讃美歌は、小さいころから親しんでいるので、どの曲も大好きです。讃美歌の歌詞も、聖書の御言葉と同じように、すばらしいものが沢山あり、力づけられています。

関口 勢津子

「主にすがるわれに 悩みはなし、

十字架の御許に 荷を下ろせば・・・」

に始まる新聖歌三二五番は、私の悩める時の慰めの賛美として、いつも心の中に準備されています。特に二節の「恐れは変わりて 祈りとなり嘆きは変わりて 歌となりぬ・・・」は出勤途中、心に浮かび上がり、声にならぬ声で賛美して、時には涙を浮かべてしまう事があり、ばつが悪くなったことを思い出します。更に三節の「主はいと優しく われと語り 乏しき時には 満たし給う・・・」の慰めに満ちた歌詞が続き思わず「ああ神様有難うございます」と心の中で叫んでしまいます。最後の四節の「主の御約束に 変わりなし 御許に行くまで 支え給わん 歌いつつ歩まん ハレルヤ！ ハレルヤ！ 歌いつつ歩まん この世の旅路を」と、恵みに満ちた歌詞が続き、主を信ずる喜びが溢れます。そして、主と共にこれから先も歩み続けたいと、いつも心を新たにされます。



第64回「こころの友伝道全国大会」 in 旭川に参加して

安藤 脩

今大会の旅路とご奉仕を全うすることが出来ました。皆様のお祈りを覚え、心より感謝致します。

今回の大会は中日の夜の「栄光と喜び」の説教と、楽器が無い集会での讚美リーダーが私の奉仕でした。ご存知のように近頃、喉が枯れて声を出し難いので心配していましたが、当日調子良く皆をリードできました。「栄光と喜び」では、北海道の地でのこころの友伝道講習会は初めてであるが、この小さな一歩が大きな主の業へ結ばれることを信じて語りました。神奈川教区でのこころの友伝道への取り組み、今回の主講師の森下氏の「三浦綾子読書会」の広がり（第1回目が1名の参加であったのに、現在は、国内外200箇所で行なわれる集会へ成長）を例話にしました。また、こころの友伝道に係ある人々、塩狩峠の主人公のモデル長野政雄さんを例話に、金や銀の器、木や土の器、器の大小に関係なく、清められた器こそ主に用いられることを語りました。



三浦綾子文学の 真髓に接したひととき

安藤 善枝

今回の特別講演会は、三浦綾子記念文学館研究員の森下辰衛氏のお話を中心でした。

三浦綾子さんが通った旭川六条教会の礼拝堂が主会場となり、三浦文学の真髓をこと細かく、実に楽しくガイドしてくださいました。特に中日のバスツアーでは、代表作品となった塩狩峠に行きました。そこには記念碑が建てられており、

第64回「こころの友 伝道全国大会」の恵み

井上 鈴枝

こころの友伝道全国大会の参加は、今回の旭川大会を含めて4回になります。今回は私が生まれ育った地、北海道で開催されます。特別な思いで申し込みました。

大会に於いては、こころの友伝道の手引きを学び、伝道奉仕者として成長したいこと。それと各地区から参加されている方々と、大会後も信仰の友として交流して行きたいこと。その願いを持って3日間の大会に臨みました。大会は開会礼拝から始まり、特別講演や証を聴き感動

近くに三浦綾子・光世ご夫妻が住んでいた家が復元され、記念館となっていました。ここでも講演がありました。

私は20代の頃「塩狩峠」を読み、永野信夫が命を投げうって乗客を助けたことに衝撃を受けた一人です。このたびその現場を訪れることが出来、感慨深いものがありました。又、三浦綾子記念文学館をも訪れましたが、それらの車中は森下氏の独壇場で実に有意義な楽しいひと時でした。参加出来たことを感謝します。

に包まれました。そして、こころの友伝道に新たな思いを持ちました。



三浦綾子の足跡を尋ねるツアーでは、三浦綾子読書会主宰の森下辰衛先生の解説と守部喜雅兄のお話が素晴らしく、三浦文学の真髓が伝わってきました。また、小説の「塩狩峠」「氷点」の舞台の地に立つことができ、感動しました。

大会が終わってからは、室蘭の親友と札幌で合い、旭川で行なわれた、こころの友伝道全国大会の喜びと恵みを話し、三浦綾子の本を渡すことができました。主の恵みに心より感謝いたします。



2017年J.C.夏季学校報告

「私は道であり、真理であり、命である」

ヨハネ 14:6

安藤 善枝

8月5日(土)子供12人スタッフ5人協力者7名で夏季学校が開かれました。テーマ「聖書ってどんな本？」と題して、聖書の内容と、又、聖書がどのようにして出来たのかをグループに分かれ、教会オリジナル絵紙芝居を通して学びました。午後は、楽しいゲームや自己紹介のあと、お待ちかね「わくわく実験工作」。発泡スチロールでフワフワな飛行機を作って、いかに長く飛ばすか考えました。フワフワと飛行機が飛ぶと歓声が湧きました。4時から全員エプロンと三角布をしてカレー作り。お肉にジャガイモ、人参、玉ねぎ切りにみんな一生懸命！皆とても上手でしたよ。自分たちで作ったカレーライスは美味しく最高でした。夜暗くなるのを待って花火を庭でしました。今年を用意した花火のほかに差し入れの花火があり、その中に打ち上げ花火があり



ました。最後にやろうという事で、みなドキドキしましたが、バーンと勢いよく打ちあがり、丁度牧師館の前あたりに落下傘が2つ落ちてきて大歓声！（となり家に行かなくなってよかった）今年はお泊まりはなかったんですが、楽しい夏季学校でした。

信仰50年を迎えて

田崎 郁代



信仰50年の記念に木の十字架を頂き、有難う御座いました。

隣りの家の細かった木

が今は太くてしっかりした木に育っています。私の信仰もこの様になってくれたらよいなと思います。50年前、洗礼を受けて良いのか迷いましたが、長谷川ミノル夫人が、信じて飛び込めばよいと助言して下さい、イエス様を信じて洗礼を受けられました。幼い時から喘息で苦しんでいたのも癒され、結婚し、子や孫も与えられました。皆さまのお祈りに主が答えて下さったおかげです。主の十字架の愛のお苦しみの故に生かされています。8月12日、長男をグループホームに送った帰りに逢った人達にライプラインの事をお知らせしながら、鶴ヶ峰の駅のベンチに座りました。隣りの人にもお知らせすると喜んで下さり、電話をしてもいいかと言われました。主のお恵みに感謝しています。

9～11月 行事予定

9月

- 9日 マリア会土曜交わり会
(ゲスト・ゴスペルグループ)
- 12日 三教会交流委員会(横浜菊名)
- 17日 敬老祝福礼拝・感謝愛餐会
- 18～20日 関東アシュラム(箱根)
- 24日 防災訓練(救急救命)

10月

- 1日 世界聖餐日
- 9日 教区伝道協議会(安藤師が講師)
- 14～15日 秋の特別伝道集会
講師・藤井圭子先生
- 19日 三教会統一祈祷課題祈祷会

11月

- 3日 清水ヶ丘教会壮年会修養会
(講師・安藤師)
- 5日 召天者記念礼拝・墓前礼拝
- 7日 三教会交流委員会(当教会)
- 12日 子ども祝福式(JC・一般合同)
- 23日 清水ヶ丘教会バザー出店
- 26日 収穫感謝日・謝恩日

(毎月第1主日 聖餐式、役員会)
(毎月第4主日 各会の定例会)



JCの窓
(ジュニアチャーチ)

夏季学校で
楽しかった事

◎今年もカレー作りをしました。今年も玉ねぎを切りました。友達と

協力して出来たので楽しかったです。

◎花火が楽しかった。最後に打ち上げ花火で、ミニパラシュートを取れて良かったです。

◎聖書は、世界中で一番読まれている本だと知りました。

聖書の内容を付けてくわえても足しても行けない事を知りました。



集会案内

◎ 土曜交わり会

9月9日 AM 10:30

ゴスペルグループを迎えて

◎ 特別伝道集会

講師 藤井圭子先生

10月14日 PM 2:00

10月15日 AM 10:30

◎ 召天者記念礼拝

11月5日 AM 10:30

◎ 子ども祝福式

11月12日 AM 10:30

編集後記

初夏の記録的猛暑、各地の豪雨、秋霖を想わせる長雨と、異常気象の今夏でした。その中、「秋号」発行出来ました。感謝致します。受洗の証し、杉本和生牧師をお迎えしての、第36回岡村アシュラム等々、多くの行事の中で、受けた恵みの号となりました。伝道の為にお用い下さい。収穫の秋を迎える事が出来ますようお祈り致します。
(T・S)

